

## ◆優 秀 賞◆

### 保ご犬だったテオ

富 士 見 小 学 校 五 年

岡 田 隼

ぼくは、保ご犬だった犬をかっています。名前はテオです。テオとの出会いは、保ご犬カフェです。そこには、けがをした犬や、治らない病気の犬がたくさんいました。その中でテオはとてもおく病そうに見えましたが、ぼくのひざの上では、いごちがよさそうにしていたので引き取ることにしました。

テオはなぜ保ご犬になってしまったのかというと、ケンネルコフという犬の病気にかかってしまったからです。この病気は治りよう期間が長く、ブリーダーは売り時をのがしてしまうので保ご犬カフェにじようとされました。実際に引き取ってから、三カ月以上病院に通いました。

なぜテオのような保ご犬ができてしまうかというと、買い手はおさなくて、見た目のよい犬をほしがるからです。ぼくがペットショップで見た犬もそのような犬ばかりでした。ぼくたちが住んでいる神奈川県は十二年連続さつしよ分ゼロですが、他の県ではそうではないところもたくさんあります。病気やしよ害のある犬もさつしよ分になることがあります。テオのように保ご犬として、引き取られるのはごく一部です。

保ご犬を減らすためにはどうしたらいいかを自分なりに考えました。まず、ブリーダーになるための資かくがあります、その試験をむずかしくしてほしいです。次に、売り手は、犬のはん売かかくを高くして、気軽

にこう入できないようにしてほしいです。最後に、買い手は、資かくをとらなければ犬をかうことができないようにしてほしいです。その資かくをとるためには、医りようひ、ペット保けん、かいごについてを試験にふくむといいと思います。

実際にテオをかってみて、大変なこともたくさんありますがうちにきてくれて毎日がとても楽しいです。そして犬は、感情豊かで、とても人に似ていると感じました。なので、捨てられる犬は、ショックが大きいと思うのでかん単に捨てられてほしくないです。

そして、まだまだ人に買ってもらうまでにいろいろな問題があります。ブリーダー、売り手、買い手全員が命にせきにんをもてるシステムが出来る日が来るとうれしいです。